

6月29日 さよなら例会会長挨拶『感謝』 海老原良夫

このように大勢の皆様方に、さよなら例会に参加を賜り感謝申し上げます。

1年間の例会を振り返ると、毎週、始めに会場入り口のSAA、親睦、出席委員会の皆様にお骨折り頂き、次にプログラム委員会に進行、最後に会報委員会に纏めて頂くという繰り返しの日々でした。例会をご担当頂いた各委員会の皆様には心から感謝申し上げます。

さらに年間を通して、それぞれの委員会の皆様におかれましても、立派な委員会活動を展開して頂きました。重ねてお礼と感謝を申し上げます。

そして、理事役員の皆様にも多大なご協力を賜りまして有難く感謝申し上げます。

とりわけ松崎隆詞幹事には、格別のお力添えを頂き、心から感謝申し上げます。

私が本年1年間クラブ会長職をやり遂げることができたのは、松崎幹事のお陰でした。

ロータリー活動を通して直面する諸問題にクラブとしての方針を決定するのに、常に松崎幹事に決裁して頂きました。お陰で私は目先の例会だけに専念することができました。

松崎幹事は、若い頃は甲子園出場を目指した高校球児でした。強肩強打で県西地区では少しは知られた名選手でした。遊撃手として三遊間の深いゴロを見事にノーバウンドで1塁に刺す強肩は、今も海高野球部OB会の語り草となっています。遊撃手は守備の要ですが、攻撃面でもリードオフマンとして強打が売り物のチームの切り込み隊長でした。

体育会系の特性でしょうか、松崎幹事は本年水海道RC幹事として、その役職に降りかかる諸問題に正面から堂々と、果敢に取り組んでおられました。実に天晴れ、見事でした。

お陰で、私はさまざまな場面で松崎幹事に叱咤激励を受け、救われました。終盤6月の或る時『そんなじゃ海老原のオトコが廃るゾ！』と脅され、危機一髪目が覚めました。

松崎幹事は体育会系の強味も弱点も、能々御存知の幹事さんでした。

体育会系は一概に『オトコがすたる』などと謂う言葉には滅法弱いものなのです。私も体育会系の端くれです。高校時代は柔道部で3年間シゴかれ講道館2段の腕前でした。

6月の或る日、地区からの追加義援金の地域への支援策にも目途が付き、私はホットひと息ついてしまい、熊本地震への支援は次年度でもよいだろうと松崎幹事に言いました。

即座に私は松崎幹事に面罵されました。『今年度、日本中からこんなに支援を受けながら熊本への支援を次年度に持ち越すとは、海老原はオトコじゃあるめえ！海老原のオトコがすたる！』まさに松崎幹事からの頂門の一針で私は目が覚め、そして恥じ入りました。

松崎幹事の提案を理事役員会に承認頂き6月中に熊本地震支援金も送金が出来ました。1年間、松崎幹事さんにはお世話になりました。心から感謝申し上げます。



2015-2016 海老原・松崎年度さよなら例会&パーティー

平成 28 年 6 月 29 日 於：満月 午後 6 時～



会長・幹事、プログラム・親睦活動委員長として最後の務め。懇親会に入り松坂会員より乾杯の挨拶。



ホッとひと安心、「満面の笑み」会長、幹事。「半分笑み」の次年度会長幹事。(笑)

以下のテーブル写真はコンパニオンさんが撮ってくれました。数枚の写真の中、会員同士が写っているものを選び、掲載しました。出席者全員が写っていませんこと、ご了承ください。



午後 8 時 20 分 次年度北村英明幹事が締め挨拶として記念写真。楽しい懇親・宴となりました。



6月30日 故飯塚三夫会員との最期の約束 海老原良夫

故飯塚三夫会員は昭和53年水海道RC入会、1998～1999年度水海道クラブ第36代会長を務められた。飯塚さんは平成23年8月31日、クラブ例会で「戦時学徒軍需工場動員」と題した卓話をされた。戦時中、旧制水海道中学生であった氏が、横須賀海軍工廠に学徒軍需動員された内容であった。

私はこの卓話に感銘を受け、それを編纂して平成25年8月31日に自費出版した『常総の隠れた英雄・鈴木頂行とその時代』の第5章「平和」の第2節に「戦時学徒軍事工場動員」として掲載した。

平成27年9月10日。関東東北豪雨水害により、私はその初版本の在庫全てを流失した。

平成28年3月15日。入院された飯塚さんをお見舞いに伺うと『入院なんて今まで1度もしたことなく、厭きたから早く退院したいんだ』と強気の言を発しておられたが、ロータリーの思い出話に花が咲くと、突然『あの本は有難う』としみりと申された。

私は「あの本は水没してしまい、今、復刻版を製作途中なので仕上がったら届けます」と約束して退室した。

平成28年3月24日。彼岸が明けたので再びお見舞いに伺った。この日、私は飯塚さんとの会話の脈絡が繋がりにくかった、ように感じて退室した。

次にお見舞いに伺った日は、ご親戚の原信田直氏ご夫妻がお見えであったので、飯塚さんには簡単なお見舞いを言上して早々に退室した。「ありがとね」と飯塚さんは声に出した。

さくら病院に転院された後に、お見舞いに伺うとベッドの上の飯塚さんは目を閉じたままで会話はできなかった。退室の際、飯塚さんの「ありがとね」は聞けず仕舞いとなった。

平成28年6月24日。あの本『常総の隠れた英雄・鈴木頂行とその時代』の復刻版が仕上がり、出版社から栄町の平安堂店に届いたのは夕刻であった。

平成28年6月26日。つくばみらい市古川の飯塚さんのご自宅に『あの本』を届けた。

棺の中の飯塚さんは、目を閉じ唇は、きっと結んでいた。私は「お約束の、あの本が出来上がったので届けにきました」と合掌した。

私は、飯塚さんの最期の「ありがとね」を聞いた、ような気がした。



飯塚三夫会員を偲ぶ

1998-1999 年度 第1 週例会にて

会長挨拶 (飯塚会長)

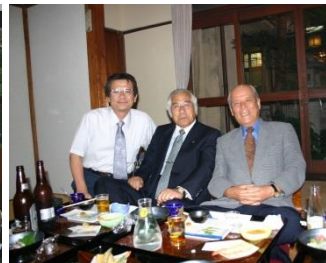
会長就任のご挨拶を申し上げます。

私がこの水海道ロータリークラブに入会を許され、新入会員としてご挨拶をした時「名誉ある歴史と伝統の当クラブに入会させて頂きありがとうございます。今日からは当クラブの一員としてその名を汚さぬよう努めさせて頂きますので、宜しくご指導の程お願いします。」と申しあげました。表現・言葉は多少異なるかは知れませんが、あの時私は感動と興奮に身を震わせながら申し上げたことを記憶しております。あれから20年の歳月が流れましたが、私は決して人に誇れる様なロータリアンではありませんでした。

今、名誉ある会長の大任を戴き、厳粛な気持ちで20年前を想い起こし全く初心にかえりあの感激と感動の中で同じ挨拶をもう一度繰り返したい、そんな気持ちでございます。

私が幹事を努めさせて頂いた鈴木会長は、本当にお忙しい方でしたがロータリー活動には精力的に取り組み、輝かしい功績を残されました。その後を引き継いだ松坂会長は、通常のロータリー活動以外に当水海道ロータリークラブの創立35周年記念事業という大イベントがありましたが、竹村実行委員長と共にご来賓の方々から素晴らしい記念事業・式典であったと称賛のお言葉を頂くほどの大成功裡に成し遂げられ、水海道ロータリークラブの歴史にまた輝かしい一ページを飾られた事は未だ記憶に新しいところでございます。

このような前会長・前々会長、そして歴代会長が、長年に亘って培ってこられた歴史と伝統の水海道クラブ会長を引き継ぐことは、微力な私にとって大変重大な責務ですが、会員の方々のご支援、ご指導を頂きながらこの一年間一生懸命務めさせて頂きますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



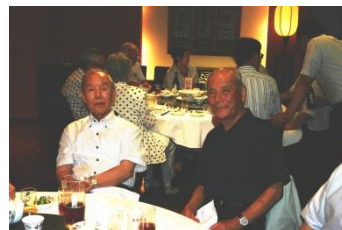
2003-2004 年度 さよならパーティーにて



2006-2007 年度 六本木での納涼会にて



2008-2009 年度 忘年会にて



2009-2010 年度 納涼会にて



交換学生ホームステイ先として度々ご協力くださいました



創立 50 周年記念式典にての歴代会長表彰

会員一同、謹んでご冥福をお祈り申し上げます

(編集：石塚克己)